

会 議 録

会 議 名	第3期小金井市史編さん委員会（平成28年度第1回）		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	平成28年6月13日（月）午前10時から11時30分		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎801会議室		
出 席 委 員	根岸委員長 牛米委員 中嶋委員 日高委員 林委員 井上委員 上原委員 山本委員		
欠 席 委 員			
事 務 局 員	石原生涯学習課長 山崎文化財係長 高木主事（学芸員）		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	無
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 市史編さん委員の追加委嘱について</p> <p>(2) 平成27年度の市史編さん事業について</p> <p>ア 市史編さん委員会</p> <p>イ 部会の活動</p> <p>ウ 「小金井市史 資料編 現代」</p> <p>エ 「市史編さん資料第55編下小金井村鴨下家文書」発行</p> <p>オ その他の事業について</p> <p>2 審議事項</p> <p>(1) 平成28年度の事業計画について</p> <p>ア 市史編さん委員会・会議3回</p> <p>イ 部会の活動報告</p> <p>（ア）近世部会活動報告</p> <p>（イ）近代部会活動報告</p> <p>（ウ）現代部会活動報告</p> <p>（エ）考古部会活動報告</p> <p>ウ 古文書調査委託（梶野家文書）継続</p> <p>エ 『小金井市史 資料編 近世』編集・執筆・発行</p> <p>(2) 通史編の発行に向けて</p> <p>3 次回以降の会議日程・場所</p> <p>第2回 平成28年11月14日（月）午前10時～</p> <p>第3回 平成29年 2月 6日（月）午前10時～</p> <p>会 場 小金井市役所第2庁舎8階801会議室</p>		

#### 4 配付資料

- (1) 平成第1回市史編さん委員会次第
- (2) 第3期市史編さん委員名簿
- (3) 小金井市史編さん大綱
- (4) 小金井市史編さん年次計画
- (5) 小金井市史 近世編構成案
- (6) 『小金井市史 資料編 現代』（林委員・井上委員のみ）
- (7) 第2次明日の小金井教育プラン（平成28～32年度）
- (8) 小金井月刊こうみんかん 6/1号

## 会 議 結 果

根岸委員長 おはようございます。雨の中お集まりいただきまして、ありがとうございます。平成28年度第1回市史編さん委員会を始めます。よろしくお願いいたします。

まず、報告といたしまして、(1)市史編さん委員の追加委嘱について、をお願いします。

### 1 報 告

#### (1) 市史編さん委員の追加委嘱について

石原生涯学習課長 本日付で新たに欠員委員の後任委員が委嘱、任命されましたので、ご紹介をさせていただきたいと思えます。

まず、市史編さん委員会条例第3条第2号、市民委員といたしまして、市内の東京学芸大学に勤務されておられます日高委員でございます。

日高委員 日高でございます。よろしくお願いいたします。

(他委員) よろしくお願いいたします。

石原生涯学習課長 同じく、条例第3条第3号委員として、市職員として、副市長の上原委員でございます。

上原副市長 皆様 改めまして、おはようございます。去る5月20日付をもちまして副市長を拝命いたし、また、本日付をもちまして小金井市市史編さん委員に委嘱されました。今後共どうぞよろしくお願いいたします。

(他委員) よろしくお願いいたします。

石原生涯学習課長 任期は、前任委員の残任期間となりますので、本年8月19日までとなっております。よろしくお願いいたします。委員の報告は以上です。

次に、本年度第1回目の会議ということで、事務局体制にも変更がございましたので、ご紹介させていただきます。再任用職員で勤務しておりました伊藤富治夫が任期満了となり、退任いたしました。4月1日付で、生涯学習課文化財係長山崎がまいりました。

山崎文化財係長 4月1日付で文化財係長を命ぜられました山崎と申します。3月末で退職しました伊藤は学芸員という専門職として在職しておりました。その後任の専門職は高木主事でございます。私は一般行政職の係長として勤めさせていただくことになりました。どうか変わらず皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

石原生涯学習課長 報告は以上でございます。

根岸委員長 ありがとうございます。

それでは、(2)平成27年度の市史編さん事業について、事務局の方からお願いいたします。

#### (2) 平成27年度の市史編さん事業について

ア 市史編さん委員会

イ 部会の活動

ウ 『小金井市史 資料編 現代』発行

エ 『市史編纂資料第55編下小金井村鴨下家文書』

オ その他の事業について

高木主事(学芸員) それでは、平成27年度の市史編さん事業につきまして、口頭で報告いたします。

まず、1) 市史編さん委員会は、5月18日(月)、10月19日(月)、2月22日(月)の計3回開催いたしました。当委員会では、部会の活動、市民協力員の活動について報告をいただき、今後の活動等について協議いたしました。

次に2) 部会の活動 についてですが、近世、近代、現代及び考古部会の活動が行われ、各調査員が活動報告と資料調査を実施いたしました。後ほど各担当委員の方からご報告をお願いいたします。

次に3) 『小金井市史 資料編 現代』発行について、こちらは、内容は、昭和12年の町制施行から、21世紀が始まる平成13年までの資料565点を所収いたしました。昨年の年末までに原稿を確定し、年明けに印刷発注いたしました。A5版、902ページ、印刷物は500冊を刊行しております。

次に4) 『市史編纂資料第55編下小金井村鴨下家文書』発行についてですが、これについては、A4版を200部印刷いたしました。鴨下家文書については、根岸先生に筆写を委託しましたものを、市史編さん事務局が校正いたしました。

次に、5) その他の事業について いくつかございます。

まず、1点目がまず、古文書の調査です。これは、昨年を引き続き、『梶野家文書』の筆写を根岸先生に委託し、実施いたしました。

2点目は市民協力員の活動です。市民協力員は、畑野時夫さんという市民の方1名にお願いしておりますが、主に明治、大正、時代の詳細な年表の作成とそれに関する個別調査をお願いいたしました。これについては、今後作成予定の通史編の参考になるものと考えております。

次に「古文書講座」につきましては、2月14日、28日、3月13日の合計3回市史編さんの調査員であります太田和子さんの講師による「古文書から読み解く近世の小金井」というテーマで開催いたしました。こちらには3回でのべ、71名の方が受講いたしました。事務局からは以上になります。

根岸委員長 部会の活動につきましては、議題の方にも載っておりますので、詳細はのちほどにかえさせていただくということで、それ以外にこの件について、ご質問がございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

次に、議題として「平成28年度市史編さん事業」について、お願いいたします。

## 2 議 題

### (1) 平成28年度の事業計画について

#### ア 市史編さん委員会について

高木主事(学芸員) 今期の市史編さん委員の任期は平成28年8月19日となっておりますので、それまでに改選の手続きを行っていきたく思っております。

す。本年度の市史編さん委員会は3回を予定しております。残りの2回については、後ほど皆様のご都合を聞いて決めさせていただきます。

根岸委員長 それでは、議題の(2)部会の活動について、それぞれの部会のご担当からお願いしたいと思います。

時代からいきますと、近世が先になるかと思うのですが、よろしいでしょうか。

(他 委 員) はい。

## イ 部会の活動報告

### (1) 近世部会活動報告

根岸委員長 それでは、近世からご説明いたしますがよろしいでしょうか。

資料4-1から4-7までを資料としてお配りしております。

事務局資料3の年次計画によりますと、今年度近世部会は資料編を刊行する予定となっております。

編集委員の私1名の他に、調査員が、現在7名になりました。私と調査員5名の方でそれぞれ資料4-1にありますような、資料編の構成案のもとで、資料を集めております。それ以外の調査員2名の方には、基本的には、まだ活字になっていない古文書を翻刻していただき、刊行に向け急ピッチで始めているところでございます。

資料の内容ですが、資料の4-1にありますような項目で、11章といたしました。

前にも何度かお話ししておりますが、基本的に近世編は、通史編の内容と齟齬をきたさない形で資料を集めることをこころがけております。

もう一つは、この地域が、野川沿いの低地に中世以来人々が住んで、そこに田んぼを作りながら集落を形成していった。それが、近世の前期に、次第に北の武蔵野台地に進出しながら、畑を作っていった。また、玉川上水の開削などにより、武蔵野台地の景観がススキ野原から畑や雑木林に変っていき、そこにも集落が成立した。さらに近代になると、次第に都市化し、産業、軍事、教育などの諸機関が入りこみ、現在の小金井の景観を作っている、そうした前提を史料の中から見えていく。その中で地域がどのように形成されてきたか。また、近世になって地域の中に自治の動きが出て、自治の伝統が地域の中に形成され、また他の地域と結びつきながら人々の活動や視野が拡大していき、産業なども発達しながら江戸等との結び付きも強まっていく。そのようなさまざまな動きや、そこに出てくる矛盾に地域の人々が対応しながら、地域の中から近代への動きが出てくる。外や上から近代が成立したのではなく、地域の人々が近代を受容する実力をもつようになる。以上の構想を史料の中から見えていこうと、目次を構成し史料を集めているというのが現在の状況です。

「一 野川沿いの村々の形成」は17世紀ごろの資料から、それが段々と武蔵野台地に進出していく過程。

「二 台地の開発と村域の拡大」は、18世紀、享保の改革において、武蔵野の新田開発が大規模に行われる、その中で、小金井も村域が拡大していく、それだけではなく、新田開発に伴って、新たな負担なども出てくるという過程。

次に18世紀から19世紀に村の人達がどのような風景の中で生活や生産に携わっていたのかが、「三 村のすがた」で、村絵図をトレースしながら、村の景観を見ていく。さらに「四 村のしくみと文書」では、村が支配や自治のために文書を作っていく姿。村の自治や、文書の成立、保存、利用を資料として取り上げる。「五 村の負担」では、村が年貢を請け負って支配を受ける村請制の問題や、甲州街道の助郷、府中の御用瓜、鷹場などの諸負担などを取り上げる。府中では、瓜を將軍のために作っていたが小金井の農民も耕作を負担した。地域の周辺は、尾張家の鷹場で、江戸藩邸の鷹小屋では鷹のために、生きた餌、小鳥、雀や鳩を飼っておき、その餌としてオケラを飼っておく必要があった。地域ではそのオケラなどの餌を江戸藩邸に納めなければならなかった。また杉の葉を幕府に上納したが、それは江戸城で蚊取り線香がわりに使ったり、トイレに刺して、はねちらさないために使用したそうである。八王子に千人同心がいるが、その給料の一部も、小金井の農村が負担している。そういった様々な負担、江戸近郊農村の特徴が「五 村の負担」掲載の史料となる。

「六 村の変化」以降は、18世紀の後半以降、村が次第に変化して、村の産業、金融が発達していく。一般的には地主制が発達するといわれるが、その様子が実は小金井の史料では出てこない。ただ村の中で金銭をお互いに融通しあう組織が作られていく。当然災害も様々な形で出ており、飢饉の影響もある。その対策を「備荒（びこう）」というが、基本的には麦や稗を蓄えておく貯穀、また幕府からの救い米もあった。

「七 広がる地域」では、他の地域との結び付きながら地域の人々の活動の範囲が広がり、江戸との交流もできてきたり、自治的にも村落が強まっていく姿を考えていく。19世紀初めには関東では治安が悪化し、それを取り締まるために組合村が結成される。小金井では組合村結成の史料が少ないが、他の地域に比べて安定していたのかもしれない。

八、九、十は、そこに住んでいる村人達がどのような文化を持っていたかを考えていく。「八 家と村人の一生」では、誕生、帯とき、結婚、あるいは葬儀など、人々の付き合いのあり方、協力の仕方などを見たい。たとえば香典帳とか祝儀帳では、段々と時代が下るにつれてつきあいの地域がひろがってくる。史料としてはそんなに面白くないかもしれないが、そんな史料を掲載する。また病気の時の薬などについて、なかなかいい史料が見つからないが、生活の視点も入れて史料を集めていきたい。

「九 村の信仰、祭礼、旅」「十 村の教育、文化、武芸」は、村の信仰や宗教者、あるいは周辺の寺社から寄付を募った問題。また講を結成して大山や伊勢などへの参詣の旅などを取り上げ、地域に住んで産業

に従事しているだけでなく、娯楽や知識などによって人々が獲得した広い視野を考えたい。そこに識字能力とか寺子屋での学習、俳句をひねったり、算術を学んだりしながら、段々と自分たちで考える力をつけていく。また上層の農民が武芸などを習得していく。そこに幕末から近代への動きもでてくるという問題を史料から見ていく。

「十一 地域から芽生える近代」が幕末の問題だが、近代への移行が、少なくともペリーが来たり、明治維新の京都における政治的な動きによって、外や上から形成されたのではなく、近代を取り込むだけの実力を村が持つようになってきたという見かたで、資料編を構成しています。今のような構成がうまくいくかというのは、なかなか資料が揃わないこともあり、難しいのですが、近世の地域のありさまと地域の人々の動きと実力を、市民の皆さんに是非、示していきたいという構成案です。

まだ、構想が成功するかわかりませんが、いま資料として近世資料編体裁案に示したのは、資料編の巻頭に掲載する部分となります。ここに見えるのは近世初期の年貢割付（年貢の請求書）ですが、小金井村大久保家文書にあるこの資料が、市内に現存する最も古い史料です。原文だけでは、市民の方に史料の内容が分からないのではないかとということで、多少見やすくするよう、史料の内容を最初に数行で文章に示すようにしました。そうすると市内に現存する最古の史料である1617年の年貢割付では、野川沿いの田畑もまた田が少なかったものが、1635年には田の年貢量が倍になっているところから、18年間の間に野川沿いの低地で水田が格段に拡大している、そのようなことがここから見えるという説明をしておく、市民の方には史料の内容が理解できるのではないかと思います。1641年になると年貢が減り始め、「付荒」という耕作放棄の様子がみえます。翌年の1642年になると寛永の大飢饉に陥り、年貢の激減や田畑の荒廃の様子もみえます。数行の説明だけでは全貌は尽くせませんが、詳細は通史編に任せて、資料編では史料から見える重要な点やヒントを指摘できればよろしいのではないかと思います。

このようにならべると理解の助けになり、他市の資料編と比較し、差をつけることができるのではないかと考えています。以上が近世編の説明です。刊行はこれからの努力次第ですが、ご意見をお聞きできればと思っております。いかがでしょうか。お認めいただければ、このような形で以後作業を進めていきたいと思っております。

牛米委員 近世編は、なかなか読みづらい部分もありますので、そのような工夫をしていただけると、わかっていただけるので、完成が楽しみです。

根岸委員長 よろしいでしょうか。それでは、このような形で進めさせていただきます。よろしく願いいたします。

続きまして、近代編の活動報告について、お願いいたします。

#### (1) 近代部会活動報告

牛米委員 資料はございません。毎回ご報告をしていますが、資料編を刊行して

以降は、通史編刊行に向けて、月1回、担当者1名テーマを決めていただいて、毎回報告をし、討議をするという形で行っています。

私どもは、資料編を刊行したので、油断している部分があるのですが、近代編刊行後に、新しく出て来た資料などを、文化財センターや、市民協力員の方が探して、新しく出て来た資料をお持ちだったりするものを通史編に生かすよう、調査、確認作業を怠らさずに行わなければならない話もしながら取り組んでいます。

また、これも、前回のテーマでしたが、資料編を作成する際に資料としてあっても、なかなか資料編には使いづらいものがありました。

例えば、その一つが、災害だったのですが、明治時代の霜の害がこのあたり、大きいのが何回もおきているのです。田んぼ一筆ごとの被害が20数頁にわたり資料があっても、これは資料編には使いにくいと判断しました。でも今後通史でとしたのですが、その場合、具体的に通史で、誰がどういう項目でどのように入れていこうかなどの検討が必要になります。

通史で書くときには、どうしても周辺の史料をもう一度を見ながら、そこと比較し、そことの共通点みたいな部分で考えていこう、そういったことをお互いにアドバイスをしながら、項目の調整をしています。この基本的な方針は今後も変更しないで、可能な限り、一カ月に1回のペースを維持しながらやっていこうと思っています。

また、今日の議題にもありますが、通史編に向けてそろそろ話しをしていくことが必要となってきますので、通史全体のイメージを明らかにしていく過程で、近代をどのようにしていくかの検討が必要かと思えます。

近代の執筆担当者は、従来と同じ体制で通史編が完成するまでは維持できる状況です。以上でございます。

根岸委員長

ありがとうございました。今の近代の現状について、何かご意見、ご質問等がございますか。よろしいでしょうか。それでは、是非よろしくお願ひいたします。

次に、現代編につきまして、この春に刊行ができましたので、その話も交えて、ご報告をお願いいたします。

#### (り) 現代部会活動報告

中嶋委員

現代編を今年の3月に刊行することができまして、最後は、ばたばたしましたが、とりあえず刊行することができて、ほっとしております。資料編に掲載できなかったもの、量的に使えないものとか、プライバシー関係で名前を削らなければ掲載できなかったものなどがあり、そのような部分については、通史で使えないかを検討していく予定です。

今、現状でやっていくことは、基本的に通史編の準備と通史編を書くための補充調査です。

いくつか、現代編で掲載できなかったものがあって、住民運動関係の資料や出版物が立教大学や法政大学にあることもわかっていたので

すが、大学でも資料の整理中でしたし、こちらも時間的に精査する時間がなかったこともあり、今後は、それについても検討していこうと考えています。

もうひとつは、資料編の作成は、資料中心なので、現物の資料を探す作業が中心でしたが、通史編については、ストーリーを作ることが必要なので、聞き取り調査も必要かと思っておりますので、それをどのように行っていくかも検討しています。

また、今まで保存されていた資料や、資料編の資料の読み直しも必要かと思っておりますので、先ほど、牛米委員も近代の方で言われておられましたように、市民協力員の方がまとめた資料がありますので、それについても読み直す作業が必要なのではと思っています。ただ、その対象となる時代背景が戦時から戦争直後についてが中心ですので、その担当の方が中心になって検討されると思うのですが、私どもの方でも読ませていただいて、現代編で使えるものはピックアップしていくようにしていきたいと思っています。今回は間に合わなくて目を通さなかった既存の資料もあったようなので、それも取り上げて、通史編に活用する予定です。

前回、ご報告したかどうか分からないのですが、新しい調査員の方が入ってきていらっしゃるしまして、資料編には係われなかったのも、まだ読んでいないので、それを読み直すところから今年度は始めていただいて、その後、調査の方に参加していただく予定で考えています。

部会では、現状の資料編の枠組みで通史編を作成していくにはどうしていこうかを検討しています。

部会は、2か月に1回のペースで、今年度は、調査員の個々の調査を中心に時間をとってやっていただく方向で、現状では考えています。

まだ、通史編の具体的な構想が示されていないので、予定ですが、通史編の原稿作成は、来年度から月1回の会合を開催し、通史編の原稿を実際に作成していく計画で考えております。

根岸委員長 ありがとうございます。今の現代編について、何かご意見、ご質問等がございますでしょうか。

林 委 員 3部会の方のご報告をお聞きしたところですが、お話しをそれぞれ伺っていますと、通史編を作成することについてかなり触れておられたのですが、この件についての部会間の調整は、今後予定にいられておられるのでしょうか。

根岸委員長 本日の委員会の終了後の会合で、各部会の方に集まっていただいて、調整をはじめの予定で考えております。

他にご質問はございますか。

次に、突然ですが日高委員、考古部会をお願いすることになりましたが、何かご自身の構想とかをお話いただけますでしょうか。

(エ) 考古部会活動報告

日 高 委 員 考古部会は、昨年12月に第1回の会議が始まりまして、実質今年

になってからスタートしたというところでは、いくつか、編さん委員会でご検討いただきたいことがございます。考古部会は、私が編集委員ということで従事しております。調査員が8名おりました、現状ほぼ月1回会合を持って、進捗情報を報告していただいているところです。

考古部会として、今後ご配慮いただきたいところなのですが、まず、刊行年度なのですが、資料3に年次計画がございまして、考古部会の資料編の刊行が当初平成29年度で計画されておりましたが、これでは、あまりにも時間が無過ぎるということで、平成30年度に延期したいということをお認めいただきたいということが一つです。

次に、小金井市史の資料編は、今まで刊行されているのが全て、A5版の大きさの本ですが、資料編 考古の作成にあたっては、これまで小金井市で行った発掘調査資料を掲載するのに、A5版ではかなり小さいものになってしまうので、資料編 考古の版だけはA4版にさせていただくとありがたいということをお願いしたいと考えております。

役割分担に関しては、今、私を含め9名が従事しているところですが、考古については、かなり広い範囲を扱わなければならないので、各時代の担当という形で、9名が係わってきております。旧石器時代から始めていくわけですが、小金井市に関しては、旧石器、縄文時代の遺跡が、非常に全国的にも有名な遺跡がございまして、小金井市史資料編 考古が刊行されれば、かなり注目されることになると思います。しかし逆に言えば、それ以降がほとんど無いということがあります。発掘調査で出てきている遺跡は、多少はあります。でもそれだけでは、形にならないところがありますので、少し、視野を広げて、隣接する国分寺市の職員の方にも調査員に入ってください、我々調査員で、相談して隣接市町村のものを厳選しながら、どうしても取り上げた方が良さだろうというものを絞ってとりあげていって、それをもとに通史編の方にすすめていきたいと考えています。

次にですね、今までの資料編はA5版の縦書きですが、考古の場合は、縦書きは厳しい。横書きにせざるを得ないと考えております。2段組みになるかと思うのですが。

小金井市史 資料編には「中世」がございません。資料が無いという理由からだと思うのですが。そのため、この時代については、考古編で扱って欲しいといわれました。それでしたら、考古学の専門でなく、学芸大学の私の同僚の中世史の文献のご専門の下村先生にご担当していただこうと、調査員に入ってください、文献を中心に調査も文献も準備をすすめていただいているところです。

先ほど横書きという話をしました。しかしながら、この、下村先生に担当していただく、文献を扱う中世の部分については、縦書きにせざるを得ない。つまり、縦書きと横書きの文書が、1冊の本と一緒に

入ってしまう。やり方としては、一つしかないのですが、始めの1ページを、縦書きは右側から、横書きは左側からで、逆方向からスタートさせる形となります。体裁が異なってしまうのですが、お認めいただければ、そのような形で準備していきたいと考えております。

最初ですので、いろいろお話ししてしまうのですが、もう一つですね、小金井市に所蔵している資料の調査も当然なのですが、他の機関に所蔵している資料の調査も行わなければいけないと考えております。今現在ピックアップが終わったところではあります、学芸大学でも私のところに資料がありますが、加えて、たてもの園にもかなり資料があります。それから、他の大学については、どこまで調査ができるのかということはあるのですが、現状の確認だけはやはりしておく必要があるだろうと思います。それを市史に盛り込むかどうかは別にですね。そう云うことも考えて、高木さん中心に調整をしながらすすめていこうと考えているところでございます。

考古編の今現在までの活動と、それから、ご検討いただきたい点について申し上げました。以上です。

根岸委員長 ありがとうございます。一番大変な部分を一番遅れてやっていただいて、感謝いたします。

今いくつか提案がございました。「刊行年度を平成29年度を平成30年度に延期したい。」が第1点。「形をA4版の横書きにする、ただし、中世編も入るので、中世の文献は縦書きになるので左右両側から見る体裁となる。」が第2点目。「他機関で所蔵している資料調査も続けていく必要がある。」が第3点。

ここで大きい問題というのは、刊行年度と版型だろうかと思います。

私は、刊行年度は、平成30年度より31年度の方がよろしいのではないかと思うのですが。

日高委員 通史編と資料編が同年度になるのは大変ではないですかということですか。

根岸委員長 そういうことです。

日高委員 考古部会の実際の活動においてということですよ。中々なんともいえないところがあるのですが。通史編を刊行するにあたっては、資料が整理できていないといけないというところがあります。同時は厳しいというところがあります。我々考古部会の調査員の方々の話の中では、なんとか、平成28、29年度のうちに資料編については、なんとか形にしたいと。それで、平成30年度のできるだけ早い時期に刊行し、同時並行で、通史編も30年度内に刊行することがなんとかできれば。実質、通史編を30年度にかけの程度で整理していかないと、通史編の作成も困難なのではないかと。

林委員 私共の話は、素人論議になってしまうのかもしれませんが、通史編が先に出て、資料編があとになってしまうというのはどうなのですか。それは、別にかまわないのですか。

根岸委員長 あまりふさわしくないと思うのですが、平成30年度の市制施行

60周年にあわせての刊行が市の方針として決まっていますので、平成29年度に資料編は完成したけれども、平成30年度の通史編の後資料として平成31年度に出すというのも説明が付き、名目はたつかと考えるのですが。市の方針は既に一度変更になっておりますので。考古は、図版の編集が大変な作業になるように思うのですが。我々の文献資料の編集とは違って大変なのではないかと思うのですが。

今の、日高委員のおっしゃる方法でやっていただく方が、林委員もおっしゃったようにふさわしいと思うのですが。

林 委 員

委員長、今、日高委員の非常に情熱的に早くすすめたいお気持ちが非常に伝わってきますので、今日、いずれにしてもこの後、午後の会合の時に通史の調整もされる際に、日高委員のご意向も含めて検討していただければいかがでしょうか。今、この場で決めなくてもよろしいのではないのでしょうか。

日 高 委 員

考古部会の方としては、市の方で平成31年度の刊行でよろしければ、そのような形に変更することはやぶさかではございません。実質は、資料編が形になっていないと、通史編を作成するにあたり、難しいという計画ではありますが、実際に印刷業者に渡してからの校正などの細かい作業も想定しますと、委員長がご指摘くださいましたような、困難な状況も出てくる可能性があります。同年度に両方の編集作業が重なってくると、共倒れということになってしまっても困りますので、変更が可能であれば、ご検討いただければと思います。

根 岸 委 員 長  
石原生涯学習課長

事務局としてはいかがでしょうか。

結構難しい課題でございます。市史の編さん自体も、教育委員会自体も、本来は市制施行50周年事業として実施する予定で事務局もそのつもりでございましたところ、50周年を基点として開始し、今回の60周年である平成30年度市史完成と、市の最上位計画でうたってございます。また、文化財センターの市史編さん非常勤嘱託職員の採用に際しましても、平成30年度までとの説明で募集に応じていただいた経過等、予算的な問題、人事的な問題にもからんできます。

根 岸 委 員 長

立ち上がってからも変更しておりますし、なかなか難しい課題だと思いますが、課題にしていいただければと思います。

林 委 員

私達の次の任期が平成31年8月までとなっておりますので、できれば、任期中に完成を見届けたいという気持ちもあります。それで、さきほどの意見も言わせていただきました。ご検討いただければと思います。

根 岸 委 員 長

午後の会議で、考えていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

もう1件ですが、考古編だけA4版で作成するという件についてはいかがでしょうか。他市でも形が変わることはあります。図版を大きくしないと見てもらえないような傾向が、世の中全体の動きになっていると思えます。あまり奇異なものにはならないと思えます。皆さんいかがでしょうか。

(他 委員) よろしいと思います。

根岸委員長 それでは、議題 古文書調査委託（梶野家文書）継続について、事務局、お願いいたします。

#### ウ 古文書調査委託(梶野家文書)継続

高木主事(学芸員) 今年度の調査委託について、昨年に引き続きまして、梶野家文書の筆写を行ってまいりたいと思います。これにつきまして、1000点以上の資料がございまして、その半分の前半部分については根岸先生に調査委託をしております。後半については、小金井市に自主活動グループ「小金井古文書の会」の方に、筆写をお願いしております。

私も係わって30数年になりますけれど、今年で56編ですから、50年以上続いている資料集で、スムーズに編さんと刊行がなされております。市史の編さんが中断している時期にも、市内の文書の保存や普及に努めるのは素晴らしい活動だと思っております。

#### エ 『小金井市史 資料編 近世』編集・執筆・発行

根岸委員長 『小金井市史 資料編近世』編集・執筆・発行については、先ほど説明させていただきましたので、そのような形でよろしいでしょうか。つづきまして「その他の事業について」、事務局お願いします。

#### オ その他の事業について

高木主事(学芸員) 3点ございます。

1点目は、毎年行っております古文書講座。講師の方はまだ未定ですが、市史編纂に係わっている方に依頼する予定でございます。

2点目は、市史編さん56編を年度内に刊行する予定でございます。

3点目は、イベント情報です。来年の1月21日(土)22日(日)に行われる多摩の書籍が集まる「多摩郷土誌フェア」がございまして、小金井市は毎年参加しております。多摩の書籍が集まる貴重な場です。この機会に、小金井市の市史、文化財について、周知してまいりたいと思っております。

さきほど、小金井市史 資料編 近世の補足をさせていただきます。発行部数は変わらず500部、印刷製本費及び解説編の執筆謝礼の予算措置を行っております。今年の9月頃までには掲載する文書を事務局に提出していただき、事務局側で編集いたしまして、事務局側でおそくとも印刷業者に原稿を11月には発注し、3月に刊行の予定です。

#### (2) 通史編の発行に向けて

高木主事(学芸員) 次に通史編についてですが、今後のスケジュール及び、役割分担、時代分担についても打ち合わせを行い決定してまいります。

根岸委員長 この結果は、次の会議でご提示することによろしいでしょうか。通史編については、こういうところに注意していただきたい点などございませうでしょうか。たたき台を提案して、ご意見を伺った方がよろしいです

ね。それでは、その他に議題として、委員の方から何かございますでしょうか。

日高委員 1点だけ申し遅れてしまったのですが、小金井市史 資料編 考古なの中に、縦書き、横書きと使いわけて、体裁も変えて、題名に「考古・中世史料」はどうかという下村先生からの意見があったのですが、いかがでしょうか。

根岸委員長 大変貴重な意見なのですが、名称については、今後、編集委員会の中で話しあって決めさせていただいてよろしいでしょうか。私としては、「考古・古代・中世」としてはどうでしょうか。

日高委員 古代の小金井の資料が無いのですよね。確かに古代があった方がよろしいかとは思いますが。

根岸委員長 それについては、編集委員会の中で話しあいましょうか。

(他委員) そうしてください。

### 3 次回以降の会議日程・場所

根岸委員長 それでは、次回の日程を決めましょうか。

石原生涯学習課長 編さんの委員会の場なので、その目的の日程だけ決めてください。

根岸委員長 編集委員会は、後ほどの委員会の際に決めましょう。

山崎文化財係長 次回日程の候補は、11月7・14日。第3回は、2月6・13・27日。いずれも月曜の午前中、この会議室を仮予約しております。この中からご都合のよろしい日程をお選びいただければと思います。

(委員間で調整)

根岸委員長 それでは、皆さんよろしいでしょうか。

次回(第2回)は、平成28年11月14日(月)午前10時～

第3回は、平成29年2月6日(月)午前10時～

いずれもこの801会議室です。

無事第1回市史編さん委員会を終了いたしました。長時間ありがとうございました。